

グリーンスローモビリティ (GSM) のご紹介

RICOH
imagine. change.



RE 100 | °C CDP
ENCOURAGE. INSPIRE. ACT.

グリーンエネルギー推進協議会

株式会社リコー
環境・エネルギー事業センター

リコー環境事業開発センターのご紹介



一般社団法人
グリーンエネルギー推進協議会とは

ONE DROP
未来を守る一滴のエネルギー

わたしたちは、地域特性を活かした再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）の普及により、安心安全で持続可能な地域づくりの実現を目標に活動しています。

わたしたちの身近には、川の流れや太陽光、風など、尽きることがなく、環境を汚染しない未利用エネルギーがあふれています。災害に弱い大規模な電力網に頼るのではなく、地域固有で環境にやさしい「自立・分散・小規模・多数・低コスト」のグリーンエネルギーの普及により、持続可能で災害に強い強靱な社会が実現してこそ、わたしたちの安心安全は守られます。

また、これまで便利なため、大量生産、大量消費してきたプラスチック製品が、ポイ捨てなど自然の中に何十年にもわたって廃棄され、それがマイクロプラスチックとなって地球環境とわたしたちの健康をむしばむ危険が叫ばれるなど、暮らし方を変えていく必要性が出てきています。

みなさんもご一緒に、自分たちの住む地域、そして世界の未来について考え、行動を起こしていきませんか。

大河の流れも一滴の雫から。

さまざまな雫を持ち寄って、まずは小さな流れをつくる。それが私たちの活動です。

1. グリーン発電と バッテリー応用分科会

グリーンエネルギー
発電によるモバイル
バッテリーへの充電
と、グリーンスロー
モビリティ等電動
システムの普及促進
活動

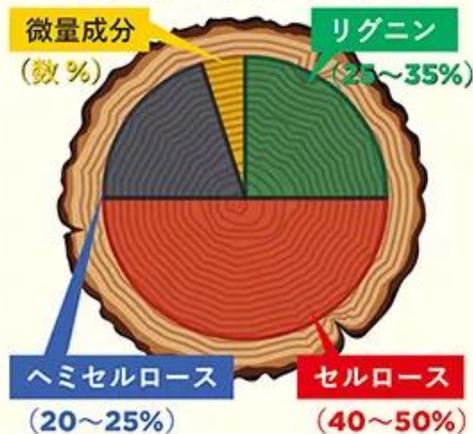


グリーンスローモビリティ（電動
カート）の運用実験を熱海瑞雲郷で
行っています。
(2021年4月8日～7月7日)

2. 地域資源分科会

森林資源（改質リグニン）、
温泉熱の活用

木材の化学組成



スギのリグニンを原料とする
バイオマスプラスチックの
普及促進

3. 海洋分科会

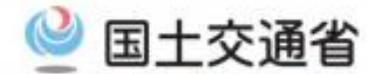
海洋資源活用と海洋環境の
保全・改善活動



わたしたちは株式会社未来創造部
(<https://mirai-sozo.work/>) と協力し
てマイクロプラスチック撲滅をめざし
た活動にも注力しています。河口に回
収網を設置し、川の流れを利用してプ
ラスチックごみ等を回収する実証実験
をしています。「地球を守る」「いの
ちを守る」活動です。

■ グリーンスローモビリティ (GSM) とは

グリーンスローモビリティとは



別添 1

グリーンスローモビリティ：電動で、時速20km未満で公道を走る、4人乗り以上のモビリティ



【5つの特長】

- ① **Green**・・・CO2排出量が少ない電気自動車。
家庭用コンセントで充電可。GS撤退地域でも運行可
- ② **Slow**・・・時速20km未満なので観光にぴったり
- ③ **Safety**・・・速度制限で安全。高齢者も運転可
- ④ **Small**・・・小型なので狭い道でも問題ない
- ⑤ **Open**・・・窓がない開放さが乗って楽しい

【事業化】乗合バス事業、タクシー事業、
自家用有償旅客運送で運行

【活用場面】

① 地域住民の足として

- 1) バスが走れなかった地域
- 2) 高齢化が進む地域
- 3) お年寄りの福祉増進
- 4) 既存のバスからの転換
- 5) 将来的に自動運転可

② 観光客向けのモビリティとして

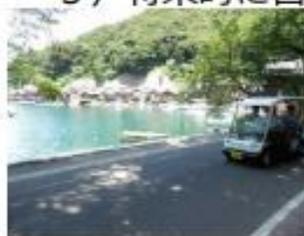
- 1) ガイドによる観光案内
- 2) プチ定期観光バス
- 3) パークアンドライド
- 4) イベントでの活用

③ ちょこっと輸送

駐車場から施設まで
施設から施設まで

④ 地域ブランディング

「地域の顔」として



グリスロを活用した高齢者送迎事業が 町田市鶴川団地で始まりました ～自家用有償旅客運送として全国初の本格事業化！～

グリーンスローモビリティ（略称：グリスロ）は環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の足の確保や観光客の周遊に資する「新たなモビリティ」として期待されています。この度、社会福祉法人悠々会が、東京都町田市鶴川団地において、買い物等のお出掛けに困っている高齢者を対象とした送迎サービスを行うこととなり、本日より運行を開始しました。グリーンスローモビリティの自家用有償旅客運送による本格事業開始は全国初となります。

※グリーンスローモビリティ…電動で、時速20km未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上のパブリックモビリティ。

【事業概要】

- ◆運行主体：社会福祉法人 悠々会
- ◆運行エリア：鶴川2・5・6丁目団地（地図上、緑線で囲んだ地域）と鶴川団地センター名店街との間
- ◆運行開始：2019年12月3日（火）
- ◆利用対象：団地に居住する高齢者（登録制）
- ◆利用方法：電話予約
- ◆登録料：年間500円
- ◆車両：ゴルフカート型（4人乗り）×2台



10月28日に行われたオープニングセレモニーの様子



<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001314051.pdf>

熱海瑞雲郷でのGSM運用実験

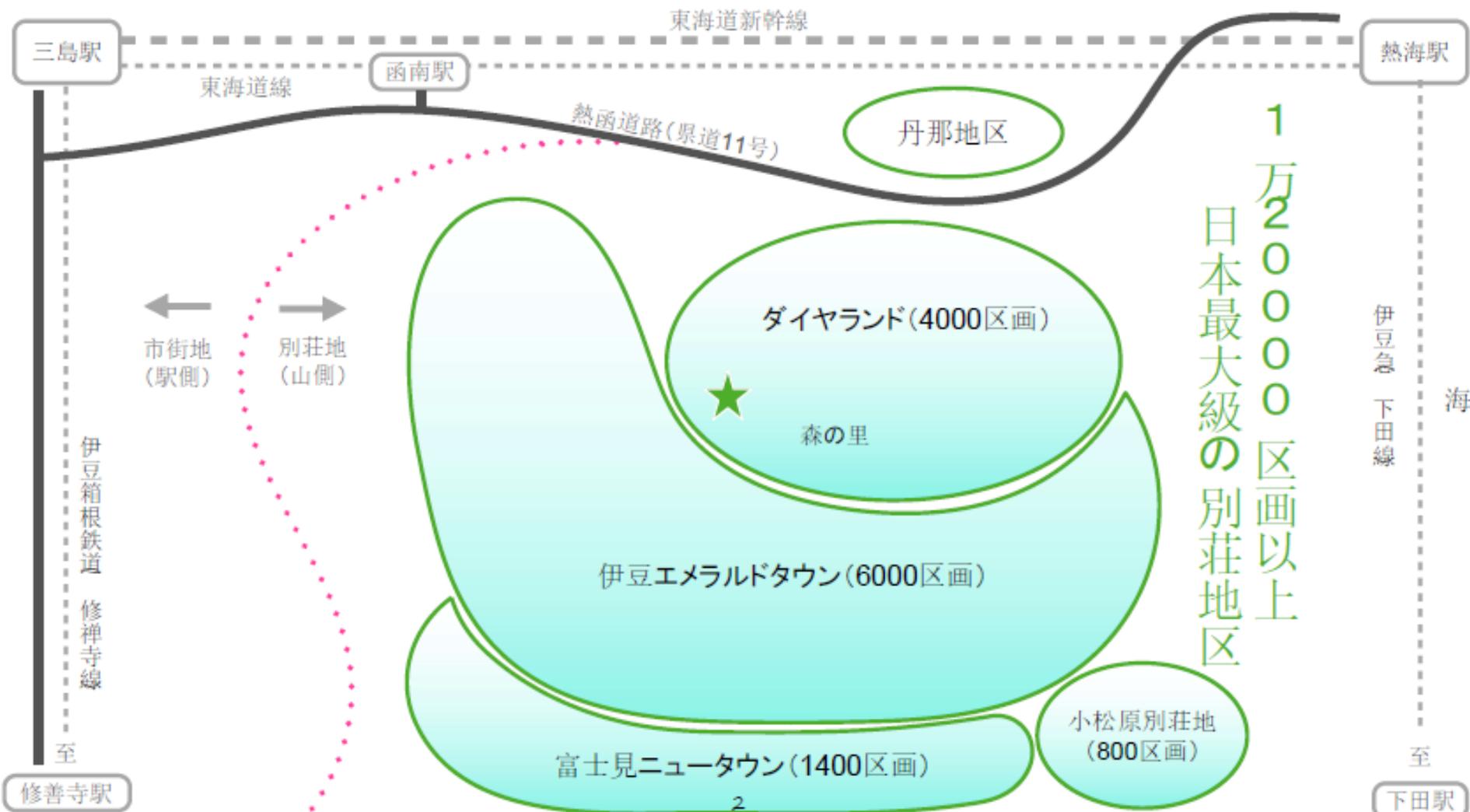
https://www.youtube.com/watch?v=T_k5-2ihYUY



<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/908611.html>



丹那地区・ダイヤモンドでの検討 (古村様ご提供)



1. 別荘エリアにおける現状の課題

地域住民の高齢化による交通手段不足

- ◆□ 公共バスがまったく無い(町の中心部にはある)
- ◆□ デマンドTAXI運用低調(丹那地区)

別荘内バスルートの非合理性

- ◆□ ダイヤランドバスも日に3往復しかない。
最寄りの函南駅(約10km)に最短で20分、時間帯によって30分~40分。
- ◆□ ルートによってはダイヤランド内だけで30分以上ぐるぐる回りなかなか自宅に到達しない。
- ◆□ 隣のエメラルドタウンのバス(無料)は週に4便で時間によっては満員で乗り切れない。

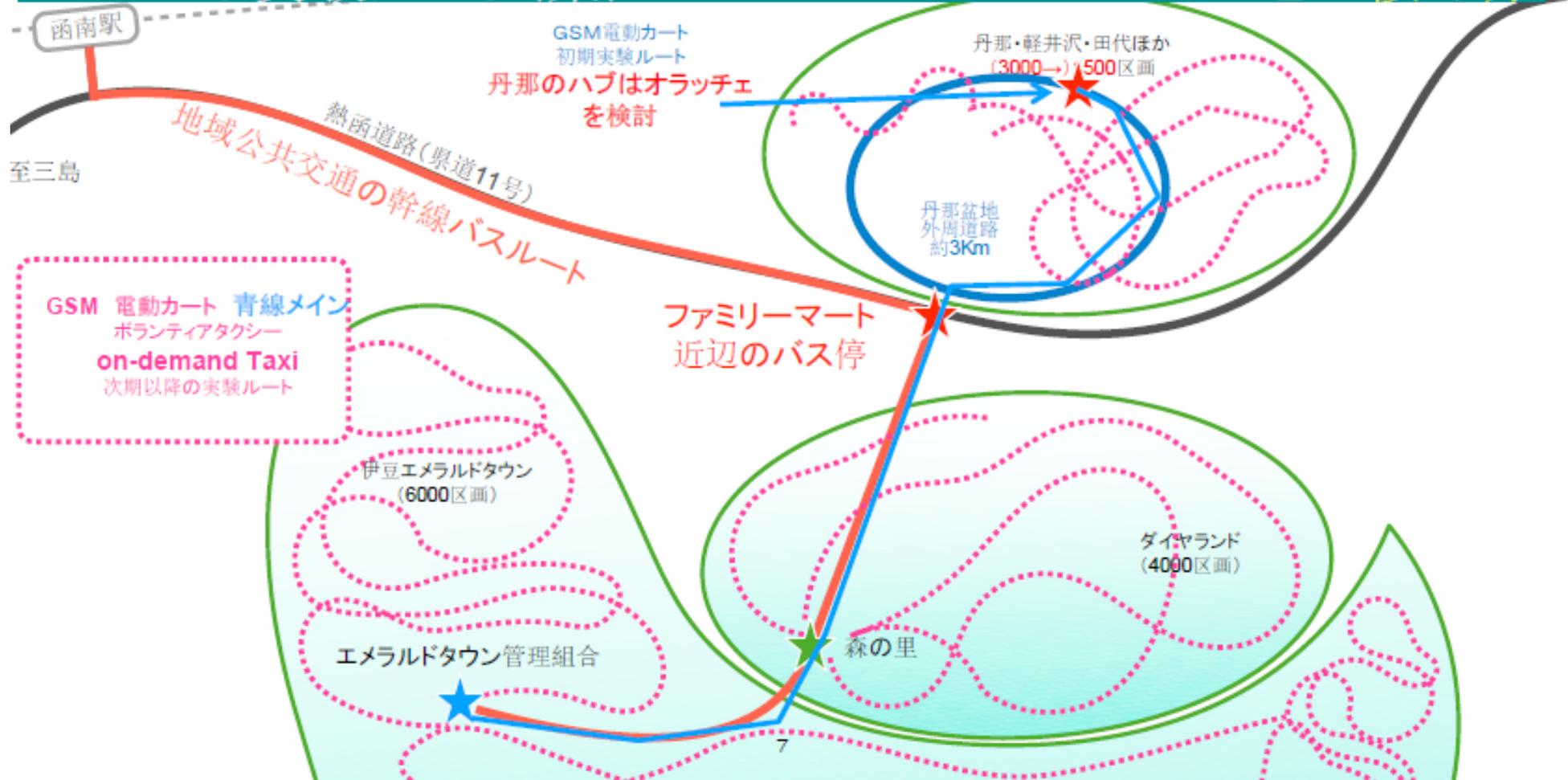
病院閉鎖などによる過疎化

- ◆□ 地元病院が2017年に閉鎖。以来、地域に病院は皆無。
- ◆□ 火曜日pm2~3時に丹那への出張医療診療が行われているが、この診療所への足がない。
(今は徒歩、自転車の患者が主体)

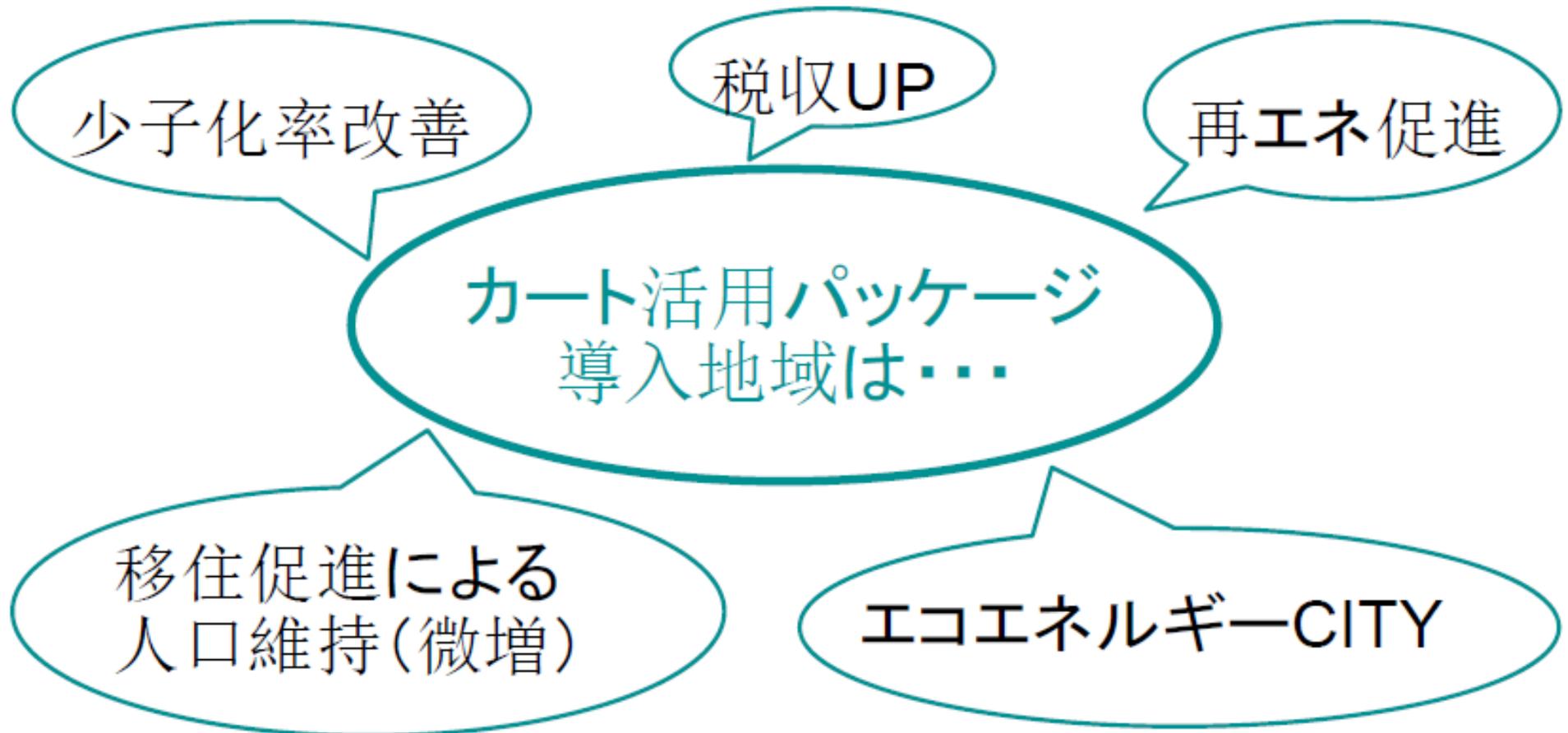
小学校、幼稚園、学童に通う児童の送迎が必要

- ◆□ 移住促進で増加する若者家族は子供の送迎の交通手段が必須。

4. カート実験ルート(案) rev.B On-demand Taxi との棲み分け



6. 将来的な展望(ビジネス化の可能性)



RICOH
imagine. change.